

2019年度

# 事業計画書

学校法人 **廣池学園**

## 麗澤教育の理念

麗澤教育は、創立者廣池千九郎が提唱した道德科学「モラロジー」に基づく知徳一体の教育を基本理念とし、学生生徒の心に仁愛の精神を培い、その上に現代の科学、技術、知識を修得させ、国家、社会の発展と人類の安心、平和、幸福の実現に寄与できる人物を育成する。

## 麗澤教育のめざす人間像

1. 大きな志をもって真理を探求し、高い品性と深い英知を備えた人物
1. 自然の恵みと先人の恩恵に感謝し、万物を慈しみ育てる心を有する人物
1. 自ら進んで義務と責任を果たし、国際社会に貢献できる人物

## キャンパスの環境保全・整備の基本理念と基本方針

### < 基本理念 >

キャンパスの環境保全並びに整備は、学生・生徒・園児・教職員及び法人関係者をはじめ、キャンパスを訪れるすべての人々が、「仁草木に及ぶ」という創立者廣池千九郎の仁愛の精神に触れ、道德心を養うことのできる環境づくりをその基本理念とする。

### < 基本方針 >

1. 人々にやすらぎと教育的・道徳的な感化を与える環境づくり
2. 人と自然の共生を図る自然を大切にされた環境づくり
3. 人と自然が調和する安心・安全な環境づくり
4. 地域社会に貢献しうる環境づくり
5. 資源の再生利用に配慮する環境づくり

## 目 次

I. 事業計画大綱	
1. 事業計画の基本方針及び重点施策	1
II. 部門別事業計画	
1 麗澤大学	2
1. 重点目標	
2. 主な事業計画	
2-1 教育活動	
2-2 研究活動	
2-3 学生支援活動	
2-4 グローバル化活動	
2-5 入試・広報活動	
2-6 キャリア形成支援活動	
2-7 社会連携活動	
2-8 大学経営基盤の強化	
2-9 認証評価対策	
2 麗澤中学・高等学校	4
1. 重点目標	
2. 主な事業計画	
3 麗澤瑞浪中学・高等学校	7
1. 重点目標	
2. 主な事業計画	
4 麗澤幼稚園	10
1. 重点目標	
2. 主な事業計画	
5 法人	12
1. 重点目標	
2. 主な事業計画	
III. 組織	
1. 役員・評議員	13
2. 組織図	14
3. 教職員の構成	16

#### IV. 予算

1. 資金収支予算	17
2. 事業活動収支予算	18

## I. 事業計画大綱

### 1. 事業計画の基本方針及び重点施策

#### (1) 基本方針

- 1) 麗澤教育の理念実現に向けた麗澤各校における教育・研究活動の遂行
- 2) 麗澤各校ビジョンの早期実現に向けた施策実行
- 3) 経営・教育・研究基盤の安定化

#### (2) 重点施策

- 1) 廣池学園創立 100 周年（2035 年）に向けた学園ビジョンの策定
- 2) 「麗澤」ブランドの確立のための施策実行
- 3) 財政基盤の安定化
  - ①麗澤各校の志願者数及び入学者の確保
  - ②各事業の優先度・実効性を踏まえた予算編成
  - ③厳格な執行管理による収支バランスの改善
  - ④麗澤各校ビジョン及び中期計画を実現するための資金計画の立案
- 4) 学生・生徒等の進路実績向上
- 5) 学生・生徒等の安定的確保のための募集・広報力強化
- 6) 学生・生徒等の満足度向上
- 7) 中高教員の働き方改革の実施
- 8) 教員評価制度の導入・実施
- 9) 職員評価（人事考課制度）定着
- 10) 公益財団法人モラロジー研究所との協力

## II. 部門別事業計画

### 1 麗澤大学

日本国内の 18 歳人口が大幅に減少している中、大学間の競争は益々激化し、経営環境は非常に厳しい。麗澤大学は、「世界と日本から真に存在が期待されるコンパクトだがキラリと光る大学」をありたき姿とする「麗澤大学 Vision2027」を掲げ、思い切った改革を実行し、大学の永続的な発展を図る。

#### 1. 重点目標

- (1) 平成 31 年 4 月就任の新学長のもと、理事会・経営組織と協働し、経営力・ガバナンスを強化する。「小規模にこだわる。国際性にこだわる。」をスローガンに、Vision2027 を実現する。
- (2) 2020 年の国際学部新設を契機に、グローバル教育の更なる強化・推進を打ち出し、志願者増を図る。
- (3) 黒字収支への転換・定着により、経営・教育・研究基盤を安定させるとともに、将来の発展への仕込みを行う。

#### 2. 主な事業計画

##### 2-1 教育活動

- (1) 2020 年 4 月に開設する新学部の設置準備に併せて、教育体系を大幅に改良する。
- (2) 2020 年度のカリキュラム改定に向け、シンプルかつ教育効果の高いカリキュラムを策定する。
- (3) ディプロマポリシーに基づく学修評価方法を策定し、2020 年度からの運用を目指す。
- (4) 新学部におけるクォーター制（科目）導入整備を進める。
- (5) グローバル教育の環境を整備する。
  - 1) 学内国際交流プログラムの整理とさらなる充実を図る。
  - 2) 魅力ある留学派遣プログラムを策定する。
- (6) 退学・除籍者削減に向けた取り組みをする。
- (7) 教職課程履修学生の指導を強化するため、教職センターの事業内容の充実を図る。
- (8) 学務システムの統合およびバージョンアップについて準備を進め、学生サービスの向上に取り組む。
- (9) 「スタートアップ支援」の導入、PBL フィールドの充実により、学生の自主的な活動を支援する。
- (10) 情報教育に関するネットワークシステム更新計画（情報教育システム 2020 整備計画）の企画および ICT 教育の質保証に関する指標を作成する。
- (11) 学生の図書・電子資料などの利用状況をより一層把握することにより、合理的な選書に努め、能動的学修を支援する。

##### 2-2 研究活動

- (1) 科研費等の外部資金による研究活動を促進する。
- (2) グローバルリーダー教育に適合できる若手教員・研究者を育成する。

##### 2-3 学生支援活動

- (1) 学生の満足度を高めるよう、学生生活環境の改善を図る。
- (2) 正課外の活動（非公認団体を含む）を多面的に支援する。
- (3) 学生寮について、教育寮・国際寮としての機能を一層強化する。
- (4) 学生相談センターの諸活動を通じて、大学全体の学生支援力の向上に寄与する。
- (5) 障がい学生支援室を中心に関連組織との連携をさらに強化し、障がい学生に対する支援体制の充実を図る。

#### 2-4 グローバル化活動

- (1) 海外提携校の見直しや留学情報発信の充実等により海外留学支援を強化する。
- (2) 日本人学生と外国人留学生の交流活動の促進を目的に、学内の国際交流活動として Conversation Partnership を促進する。
- (3) 留学と留学前後の学びを結ぶ「ROSE (Reitaku OverSeas Education) Program」を展開する。
- (4) 留学・国際交流に関わる危機管理体制の整備を行う。特に緊急時における意志決定のプロセスを明確に定めていく。

#### 2-5 入試・広報活動

- (1) 志願者（入試区分）毎にきめ細かい情報発信等の施策により、志願者増加と適正な入学者確保を図る。
- (2) データに基づく効果測定を行い、合理的な広報および募集施策を展開する。

#### 2-6 キャリア形成支援活動

- (1) 低学年次からのキャリア形成支援及び就職支援をより一層改善強化し、採用・就職スケジュールの変更や、景気変動に伴う採用環境の変化に振り回されない支援体制の更なる強化を図る。
- (2) 卒業時進路未決定者を一人でも少なくすべく、きめ細かな支援を行い、実就職率\*90%以上の達成を目指す。  
\*実就職率＝就職者÷（卒業生－大学院進学者）×100

#### 2-7 社会連携活動

- (1) ROCK が開講する生涯学習講座、特別講演会の生涯学習プログラムを更に充実させ、地域社会のシニア世代へ教育機会を提供する。
- (2) 地域社会・産業・行政との連携により教育力・研究力および社会貢献力を向上させる。

#### 2-8 大学経営基盤の強化

- (1) 教育活動収支の黒字転換・定着を実現する。
- (2) 経営組織と協働し、経営力・ガバナンスを強化する。
- (3) 教員評価制度の導入により教育・研究力を強化する。
- (4) 職員人事制度改定に応じた目標成果管理体制を浸透させ、個人スキルの向上を図る。

#### 2-9 認証評価対策

- (1) 認証評価（2021年度受審）に向けて、学内体制を整備する。
- (2) 教育研究水準の向上に資する準備作業に着手する。

## 2 麗澤中学・高等学校

建学の理念に則り、国家・社会及び国際社会に貢献しうる人材を育成する。この目的を達成するため、教育内容及び教育の質の更なる向上をめざし、ビジョン、中期計画に沿って諸施策を実行に移す。

### 1. 重点目標

#### (1) 教職員の資質向上

- 1) 教職員の人間力の向上及び資質の向上を実現するため、モラロジー研修及び各種研修の充実を図る。
- 2) 教職員がビジョン実現に向けて各自の目標達成を可能とするため、人事評価制度を充実させる。

#### (2) 進路実績の向上

- 1) 平成 30 年度にスタートした新学年制度の更なる充実を図るため、学年部長を中心とする各学年の生徒指導・学習指導・進路指導体制を強化する。
- 2) 中学段階における初期指導を充実させるため、教育課程を見直すなど一貫教育における基礎教育の充実を図る。
- 3) アドバンスト叡智コースの教育課程・教育内容の充実を図り、目標達成のための諸方策を実施する。
- 4) 高校段階における教育課程・教育内容の更なる充実を図り、コース毎の学習指導及び進路指導の更なる充実を図る。
- 5) プロジェクト叡智（校内予備校）の更なる充実を図ることで、高校 5、6 年生の進路指導を強化し、生徒各自が志望する難関大学への合格実現をめざす。

#### (3) 寮体制の改革

- 1) 麗寮の基本理念に立ち返り、寮制度および寮慣習の改革を行うことによって、健全な人間関係に基づく寮生活を実現する。
- 2) 寮内の学習体制を更に充実させ、寮生の学力向上、進路実績向上をめざす。
- 3) 新たに在校生及び編入生の途中入寮の制度化を行う。

#### (4) 部活動の改革

- 1) 中学段階における活動時間、活動日、活動内容の見直しを行うことで、限られた時間でより充実した部活動を実現させる。
- 2) 高校段階では、コース毎の活動時間、活動日、活動内容の見直しを行い、適正な部活動を実現する。
- 3) 特別強化指定部として女子ラグビー部の活動を充実させる。

#### (5) 教職員の勤務体制の改善

- 1) 教職員の超過勤務時間を抑制し、限られた時間で充実した勤務を実現できるような改革を行う。

#### (6) ICT 教育の充実

- 1) 校内における ICT 環境の改善を推進する。
- 2) 1、4 年生全員に生徒用タブレット所持を義務化することで、生徒の授業改善、課題提出、高大連携等に向けての教育環境改善を図る。

#### (7) その他

- 1) 平成 31 年度より新教務システムを導入し、教務・事務作業の効率化を進める。



- 2) 魅力ある学校づくりを推進することにより、中高ともに受験生を増やすことをめざす。

## 2. 主な事業計画

### (1) 教務部

- 1) 教務システム変更を行う。その際、業務の円滑化、業務削減に留意する。
- 2) 新学習指導要領施行に向けてカリキュラムの整備を行う。
- 3) ICT教育の充実および授業力向上のために、タブレット利用の充実を図る。
- 4) 中学の道徳が「特別な教科道徳」に改訂されるのに伴い、適正な評価を行えるようにする。

### (2) 進路指導部

- 1) 進路目標の達成をより確実にすべく、全国レベルの各種模擬試験や検定試験の指導上の位置づけを再定義するとともに、その結果をもとに学年・教科担当者が現状の把握・分析と目標達成に向けての検証・改善を図ることが可能な運用方法の改善を図っていく。
- 2) 特に東京大学合格を目標とするAEコースについては、6年間を通して、自ら基礎教養を日常的に求め深め積み上げていく生徒を育成すべく、AE特別プログラムを実施していく。

### (3) 学習指導部

- 1) 進路目標達成に向けた学力の向上をめざし、学内で全学年を対象に実施している各種講座(季刊講座・夜間講座・プロジェクト叡智など)の運用と改善、強化を図っていく。
- 2) 部活動改革に合わせた「中学月曜プロジェクト」の新規開始に伴い、その運用・改善を行い、より効果的・効率的なプロジェクトの策定を進めていく。
- 3) 中高接続を効果的なものとし、難関大への現役合格実現のため、「中学月曜プロジェクト」と連動した「中3バイパス講座」のプランニングを策定し、実施・運用をめざす。
- 4) 教員に向けた授業力研修を運用し、教員全体の授業スキル・授業指導力・教科指導力の継続的な向上・改善をめざしていく。

### (4) 生徒指導部

- 1) 中学段階における生徒指導に関する初期指導の充実を図るために、学年と協力して規範意識を育む生徒指導体制を構築していく。
- 2) インターネット、生徒用タブレット、携帯電話に関する情報モラル(特に「LINE」の利用法、写真の無断掲載など)について、マナー教室の開催により、また学校集会・学年集会の場において、より一層注意喚起を図る。
- 3) 登下校中の問題について、トラブル防止に努める。公共マナーの指導及び安全指導のため、教員当番を継続し、保護者にも定期的に参加してもらうことで登校時の指導の現状を把握してもらうように努める。

### (5) 特活指導部

- 1) 進路指導部との連携を図り、部活動の時間の在り方や休日の設定を検討する。
- 2) 体育祭、麗鳳祭の開催時期、開催方法を検討し、目標とする進路実績を実現させるための取り組みを行う。

### (6) 入試広報部

- 1) 本校のWebサイトのアクセス状況を確認しながら、ページの構成の修正及び動画コンテンツ等の充実を図り、中学校及び高等学校の募集活動を強化する。
- 2) 塾訪問・中学校訪問について、訪問計画に基づき本校の教育内容の紹介を重点的に進めることで、より多くの塾生及びその保護者が、本校の学校見学会・説明会や、校外の合同説明会等の本校ブースに参加してもらえるよう積極的に働きかける。
- 3) 学校の教育活動の中から、外部に広報できる素材を収集し外部発信できる体制を構築する。

4) 海外帰国生募集について、本校の知名度を上げ、教育内容や入試情報を伝えるため海外説明会への資料参加や塾・日本人学校への資料送付を積極的に行う。

(7) 進路業務部

1) 進学実績向上および定員確保のための分析を進める。

### 3 麗澤瑞浪中学・高等学校

建学の精神に則り、道德教育を根幹にして、寮教育や教科指導、部活動や学校行事の充実を図るとともに、諸施策を以下のように実施する。

#### 1. 重点目標

##### (1) 生徒数の安定確保と収支構造の改善

- 1) これまでの広報活動を刷新し、外部会場入試なども実施して全国から寮生の確保に努める。
- 2) 近隣小中学校や学習塾への広報活動を積極的に展開し、通学生の入学者を増やす。
- 3) 麗澤校友会や研究所の協力を得て、全国的な広報活動をより一層推進する。
- 4) 寮やクラスの管理体制やカリキュラムの変更等を通じて、人件費の削減を行う。

##### (2) 寮生活の指導体制の改革

- 1) 土日帰宅型寮の設置、夜間学習の充実など、中高男女生徒寮における教育体制についての抜本的な改革を推進する。
- 2) 寮における従来の伝統的な規則やルール等について、見直しや刷新を図る。
- 3) チューターの勤務体制や業務内容の見直しを図って、勤務環境の改善に努める。

##### (3) 学習指導体制の充実

- 1) 中学校から高校まで6ヵ年における各教科の学習指導体制を確立する。
- 2) 選抜性の強い大学への合格率の一層の向上を図る。
- 3) 新しい大学入試制度に対応した学習指導体制を整える。

##### (4) 部活動の強化と環境整備

- 1) 部活動全員加入を維持し、生徒全員が生き生きと活動できる環境の整備を図る。
- 2) 強化指定部を中心に、全国大会出場を果たすことのできる生徒の育成に努める。
- 3) 外部コーチを積極的に招聘して、教職員の勤務環境の改善を図る。

##### (5) 教職員の資質向上と勤務環境の改善

- 1) 麗澤教育の理解と学習を通じて、教育理念に沿った教育活動の一層の充実を図る。
- 2) 教職員の休日の部活動も含めた時間外勤務を削減できるように、業務内容の見直しと勤務負担の適正化を図る。
- 3) 校内の「コンプライアンス向上委員会」を中心に職場管理を徹底して、教職員の執務環境の改善を図る。

#### 2. 主な事業計画

##### (1) 教務部

- 1) 大学入試制度改革や学習指導要領改訂に対応したカリキュラムを、進路指導部、教科指導部と連携して作成する。
- 2) カリキュラムや時間割の見直しを通じて、教員の働き方改革を一層推進する。

##### (2) 担任部

- 1) いじめなどの問題の早期発見早期対応を最優先し、生徒一人ひとりが落ち着いて進路目標を目指すことができるホームルーム指導を行う。
- 2) 教員の働き方改革を円滑にするために、柔軟かつ大胆な業務の見直しを行い、実効性のある改革実現を目指す。

##### (3) 教科指導部

- 1) 研究授業や公開授業などを通して、主体的・対話的で深い学びの実現や、ICTの活用につい

て一層の向上をはかる。

- 2) 新学習指導要領の完全実施に向けて各教科で授業内容の見直しを行い、6ヶ年のシラバスの刷新に向けて継続的に取り組む。
  - 3) コース制の特長を活かせるよう、コースに応じた授業内容について改善を加える。
  - 4) 低学年層の学習意欲と成果を高める工夫をして、学力の向上を図る。
- (4) チューター部
- 1) 寮の編成や日課を大胆に見直し、生徒が学習などに打ちこみやすい環境づくりを目指す。
  - 2) 寮の規則や寮生の慣習などを見直し、生徒が安心して生活できる寮づくりを目指す。
  - 3) チューター業務全般を見直し、チューターの働き方改革を推進する。
- (5) 進路指導部
- 1) 学力だけでなく社会性や人間性も含めた全人的な成長を促せるよう、中高6か年を見据えたキャリア教育計画を立案する。
  - 2) 選抜性の高い大学への合格実績の向上や生徒全体の学力向上のために、外部模試を基準に据えたPDCAサイクルに基づく進路指導体制を築く。
  - 3) 大学入学共通テスト等の大学入試改革や新学習指導要領の情報収集に努め、全教職員で一貫した指導体制を取り、本校の課題が共有できるように情報発信を行う。
  - 4) 業務のマニュアル化を進め、業務の属人化を避けるとともに、業務内容の整理と見直し、教員の業務負担軽減を推し進める。
- (6) 生徒指導部
- 1) 教職員から生徒情報の収集、要約を迅速に行い、必要な情報を共有する。
  - 2) 年度当初に「いじめ防止基本方針」を教職員、生徒、保護者に周知徹底する。年3回の生徒アンケート、年2回の保護者アンケートを実施し、学年団、チューター部、部活動等、チームでいじめに迅速に対応する。
  - 3) 全生徒に対して情報モラル教育を年2回実施する。また保護者対象の情報モラル教育も年1回実施する。教員研修においても、いじめ、情報モラル関連の研修を実施する。
  - 4) ハイパーQUテストを中高一斉に年1回実施し、生徒やクラスが抱える問題点の発見に努める。またテスト結果に対する研修も実施する。
  - 5) MS(マーズ・スピリット)リーダーズ、MSJ(マーズ・スピリット・ジュニア)リーダーズ活動を活発化し、生徒の自己有用感を高める。
- (7) 特活指導部
- 1) 月1回の代議員会、生徒会委員会を充実させ、各クラスで活動内容の周知徹底を推進する。また、生徒会執行部主催のボランティア活動なども、校内外へ発信していけるように推進する。
  - 2) 中高共に生徒会行事の内容を精選し、より充実させる。
  - 3) 週1回の主将ファイル、顧問による月報を通して、各部活動の状況を随時把握し、部活動のさらなる充実を目指す。また、生徒の意見を顧問教員に伝え、部活動内での問題意識の共有化を図る。
  - 4) 強化指定部の支援体制を一層充実させ、一人でも多くの生徒が全国大会に出場できるよう、サポートを行っていく。
- (8) 自学センター
- 1) 他部署との連携を強め、今年度導入される教務システムや教員用PCの機能を有効に活用し、勤務環境や授業方法の改善に寄与する。
  - 2) Common Library(図書室)やコンピュータ教室の積極的な利用を通じて、大きな志、幅広い知識、公共物を大切にする心などを持つ生徒の育成に努める。

3) 進路実績を向上させるため、効果的な学習指導体制の進展に役立つ電子黒板やeラーニングシステム、IT機器の導入を検討する。

(9) 研究部

1) 伝統の日・感謝の集い、寮内体験発表会、ニューモラル学習などを企画し、これらの学習を通して生徒によりよい生き方を求めていく力を育成する。

2) 教職員研修において、本校の重点目標に即した講師を招聘し、教職員の資質の向上を図る。また、新規専任採用教員への研修、初任者の研修などの研修制度の充実を図る。

(10) グローバル教育部

1) 国際交流の業務内容や資料を整理し、国際交流室（RIO）への集約とその運用方法の確立を図る。

2) 今年度の海外姉妹校の本校訪問交流を成功させ、交流を通じて3年生及び5年生の海外修学旅行のための語学力向上を図る。

3) オンライン英会話サービスの円滑な運営を図り、英語科と協力してTOEIC、TOEFL、GTECなどの外部検定試験での生徒の高得点取得を支援する。

4) 外国人留学生と本校生徒とのさらなる交流を深めるべく、ICTなども駆使して言語交流活動を増やすと同時に、外国人留学生の日本語及び日本文化学習プログラムをさらに発展させる。

5) 日本で開催されるラグビーワールドカップや来年の東京オリンピック・パラリンピックへの生徒参加の可能性を探り、可能な限り実施する。

(11) 広報部

1) 広告媒体を精査し知名度のアップを図る。特に、学校の活動が分かる情報の発信を心がけ、「麗澤瑞浪ニュース」等を3カ月に1回のペースで発行して、全国の各関係者に発送する。

2) 学校、塾、企業への訪問範囲を広げ、通学困難地を含めた広範囲に及ぶきめの細かい募集活動を展開する。

3) 寮生を増やすために、寮教育の魅力・利点を整理して、卒業生、モラロジアンを中心に広く情報を発信する。

4) 海外に支社を持つ地元企業などへのPRを行って、帰国子女など多様な生徒の獲得をする。

5) 合同相談会への参加、学校見学会の回数を増やし、中身の充実を図って学校の魅力をしっかりと発信していく。

## 4 麗澤幼稚園

建学の精神に則り、麗澤教育の入り口としての位置づけのもと、園児の生きる力や基礎体力の向上に努める。また、こころを育む教育を土台にした質の高い幼児教育を提供しつづける園を目指し、ビジョンや中期計画に沿って諸施策を実行に移す。

### 1. 重点目標

- (1) 「こころを育む教育」の体系化と充実
  - 1) 「麗澤幼稚園メソッド」の策定
  - 2) 教師の資質向上
  - 3) 保護者との連携
- (2) 基本となる幼児教育の定期的な見直しと充実
  - 1) 教育要領と教育内容との照合およびカリキュラム化
  - 2) 保育スキル向上に向けた取り組み
  - 3) 教育環境の整備
  - 4) 保護者アンケートの実施や他園の幼児教育の動向把握
- (3) 課外活動の充実
  - 1) 新課外活動の設置
  - 2) 正課への導入検討
- (4) 時代の変化を先取りした園運営
  - 1) 預かり保育の充実
  - 2) 給食の提供回数増への検討
  - 3) 満3歳児保育導入に向けての検討
- (5) 計画的な募集広報活動
  - 1) 未就園児プレルーム「うさぎルーム」の充実
  - 2) 子育てひろば「あいあい」の活用
  - 3) 広報ツールの見直しと充実
  - 4) 学園広報部との連携

### 2. 主な事業計画

- (1) 「こころを育む教育」の体系化と充実
  - 1) 伝統的に受け継がれてきた麗澤幼稚園ならではの「こころを育む教育」の体系化を完了し、日々の保育や研修に活用する。日本の伝統文化や園行事を通してどんな心を育てていくのかについての、具体的な指導方法をまとめる。
  - 2) 教材のひとつである「心のドリル」の活用方法を検討し、心を育むための具体的な指導方法とその成果についても分析しまとめる。また、立腰教育を定着させる。
  - 3) 教師自身が、モラロジー教育の基礎及び建学の精神の理解を深めるため、道徳教育の研鑽を積む。
  - 4) 家庭においても「こころを育む教育」への協力が得られるよう、保護者との信頼関係づくりのためのコミュニケーションの充実に努める。
- (2) 基本となる幼児教育の定期的な見直しと充実
  - 1) 幼稚園教育要領における具体的な「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」（10の姿）に照

らし合わせ、教育内容の見直しを図る。また、学年ごとの到達目標を定め、3年間の連続性ある指導カリキュラムを作成し、日々の保育に生かす。

- 2) より質の高い幼児教育を目指し、教師自身が保育スキル向上に向けた努力を重ねる。
- 3) 教育内容の充実に向け、園児が心動かされる様々な体験ができるよう教育環境を整える。また、学園の自然豊かな環境を十分に生かした教育内容を図る。
- 4) 在園児や未就園児の保護者にアンケートを実施し(7月と11月)、教育に関心の深い保護者の要望に応えられるよう、教育内容の充実に努める。また、他園の教育内容の動向も情報収集し、教育内容の見直しに繋げる。

### (3) 課外活動の充実

- 1) 保護者アンケートに基づき、教育に関心の高い保護者の要望に沿った課外活動を検討する。
- 2) 活動内容にバリエーションをもたせ、麗澤幼稚園ならではの充実した取り組みを図るため、2019年度はプログラミング教育とラグビー教室を開設し、軌道に乗せる。
- 3) 課外教室への参加希望状況や保護者の要望等を踏まえ、正課への導入も検討する。

### (4) 時代の変化を先取りした園運営

- 1) 2019年度より早朝預かり保育を開始し、保育園同様の預かり保育の充実を図る。
- 2) 保護者アンケートの結果を踏まえ、年中・年長組への給食の回数増の検討と、年少組への給食提供についてもニーズを把握し、時期や方法を検討する。
- 3) 満3歳児保育導入に向けて、具体的な人員配置や保育内容等の情報収集に努め、保育室改修も含めて検討する。

### (5) 計画的な募集広報活動

- 1) 2019年度より未就園児プレルーム「うさぎルーム」において、入園を前提とした木曜毎週クラスを開設する。2学期以降は「母子分離」を視野に入れ、他コースと共に保育内容の充実を図る。また、毎週コース増や金曜コース開設についても検討を始める。
- 2) 子育てひろば「あいあい」の設備充実を図り、あかちゃん教室「ほっぷ」を開設することでより活動内容を充実させ、参加者増に繋げる。また、「うさぎルーム」への入会および「園庭開放」等への誘導を強化する。
- 3) 公式ホームページのデザインの見直しを図り、5月より新たに幼稚園Instagramを開設する。また、積極的に新興住宅地へのパンフレットやチラシを配布し、広報の充実に努める。
- 4) 学園広報部と連携を取り、イベント毎にプレスリリースの内容や時期を検討し、広報活動の充実を図るとともに、麗澤ブランドの構築に努める。

## 5 法人

### 1. 重点目標

- (1) 廣池学園創立 100 周年（2035 年）に向けた学園ビジョンの策定
- (2) 麗澤各校のビジョンの早期実現に向けた施策実行と進捗把握・評価
- (3) 財政基盤の安定化

### 2. 主な事業計画

- (1) 組織の管理運営体制強化
- (2) 収支改善に資するための諸経費の見直し
- (3) 施設・設備の改善・充実
  - 1) 法人
    - ①電子申請システムの運用開始
    - ②人事・給与・勤怠システムの更改
    - ③法人施設の中期計画の作成
    - ④各校ビジョンに基づく施設整備計画の作成
  - 2) 麗澤大学
    - ①情報教育システム 2019 の運用開始
    - ②学籍管理システムの更改及び周辺システムとの統合実施
    - ③校舎かえで女子トイレの改修工事
  - 3) 麗澤中学・高等学校
    - ①教育システム（ネットワーク）の更改
    - ②未来型 ICT 教室への改修
    - ③学籍管理システムの更改
  - 4) 麗澤瑞浪中学・高等学校
    - ①教育システム（教育用教員 PC）の更改
    - ②学籍管理システムの更改
    - ③下水道管改修工事（継続事業）
- (4) 「麗澤」ブランドの確立・強化
  - 1) ビジョンに基づくブランド設計着手
  - 2) 広報活動（ブランドステートメント・ロゴ・カラー）の管理・運営ルールの構築
- (5) 麗澤教育の推進
  - 1) 中学校における特別の教科「道徳」の教員研修・運営の支援



### Ⅲ. 組織

#### 1. 役員・評議員

理事（定数 11 人、現員 11 人）

理事長 廣池幹堂

常務理事 中川敏彰、竹政幸雄、廣池英行、山崎裕二

理事 蟹井克也、徳永澄憲、西 裕康、松浪 進、松本卓三、渡邊 信

監事（定数 2～3 人、現員 2 人）

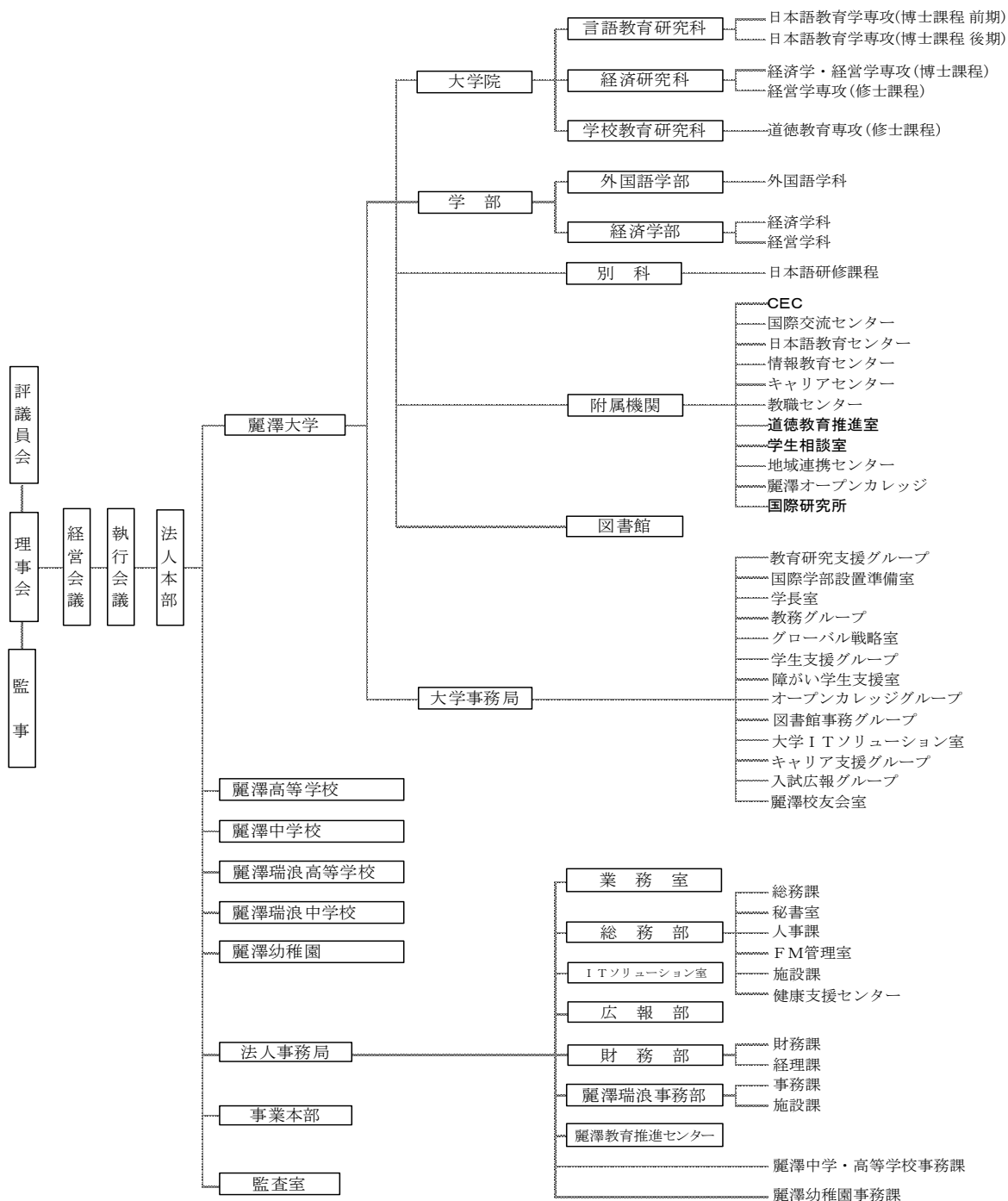
濱井利一、風澤俊夫

評議員（定数 25 人、現員 23 人（うち中学校長と高等学校長を兼務する者 2 人））

安達 肇、新井眞一、岩澤知子、岡田 喜、籠 義樹、蟹井克也\*、上村昌司、黒須里美、  
小出 進、琴谷達郎、高橋秀一、竹政幸雄\*、徳永澄憲\*、中川敏彰\*、西尾征司、野本廣之、  
廣池幹堂\*、古川正儀、俣野幸昭、松浪 進\*、松本卓三\*、山崎裕二\*、渡邊 信\*

※印は理事兼任者

## 2. 組織図



注) 麗澤大学大学院言語教育研究科比較文明文化専攻及び英語教育専攻並びに経済研究科経済学専攻は、2019年度より募集停止。

(1) 組織の変更（平成 31 年 4 月 1 日付）

- 1) 国際研究所を新設し、既存の経済社会総合研究センター、比較文明文化研究センター、企業倫理研究センター及び言語研究センターを同研究所内の組織に位置付けた。
- 2) 外国語学部が所管していた C E C を麗澤大学の附属機関に位置付けた。
- 3) 学修支援センターの機能をキャリアセンターに移管・統合した。
- 4) 学生相談センターを学生相談室、道徳科学教育センターを道徳教育推進室にそれぞれ改称した。
- 5) 事業本部の記載位置を変更した。
- 6) 新学部設置準備室を国際学部設置準備室に改称した。
- 7) 麗澤大学大学院の募集停止した専攻について表記を外した。
- 8) 大学院グループを改組し、大学院業務を教務グループに移管した。
- 9) 大学の情報システム室を法人全体で活用することとし、機能を拡大、法人事務局に移管、名称を I T ソリューション室に改称した。大学の現情報システム室は大学 I T ソリューション室に改称。
- 10) 地域連携・オープンカレッジグループを改組し、地域連携業務を教務グループに移管した。
- 11) I R 推進室を廃止した。

### 3. 教職員の構成

(平成31年4月1日現在)

区 分		専 任 教 職 員			非常勤講師			常勤嘱託			非常勤嘱託 パート嘱託			総 計		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
教育職	麗澤大学	83	38	121	82	54	136	-	-	-	-	-	-	165	92	257
	麗澤高等学校	47	13	60	8	9	17	-	-	-	-	-	-	55	22	77
	麗澤中学校	24	13	37	2	4	6	-	-	-	-	-	-	26	17	43
	麗澤瑞浪高等学校	37	11	48	2	4	6	-	-	-	-	-	-	39	15	54
	麗澤瑞浪中学校	15	3	18	2	1	3	-	-	-	-	-	-	17	4	21
	麗澤幼稚園	1	12	13	0	5	5	-	-	-	-	-	-	1	17	18
小 計		207	90	297	96	77	173	-	-	-	-	-	-	303	167	470
一般職・技能職・現業職	法人本部	1	0	1	-	-	-	1	0	1	0	0	0	2	0	2
	国際研究所	0	0	0	-	-	-	0	0	0	1	1	2	1	1	2
	大学事務局	28	25	53	-	-	-	8	13	21	1	17	18	37	55	92
	業務室	1	1	2	-	-	-	0	0	0	0	0	0	1	1	2
	総務部	18	5	23	-	-	-	1	2	3	0	7	7	19	14	33
	ITソリューション室	4	0	4	-	-	-	-	-	-	0	1	1	4	1	5
	広報部	0	0	0	-	-	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	財務部	5	1	6	-	-	-	0	0	0	0	3	3	5	4	9
	麗澤瑞浪事務部	13	3	16	-	-	-	3	9	12	1	5	6	17	17	34
	麗澤教育推進センター	1	2	3	-	-	-	0	0	0	0	0	0	1	2	3
	麗澤中学・高校事務課	3	3	6	-	-	-	0	2	2	1	8	9	4	13	17
	麗澤幼稚園事務課	0	1	1	-	-	-	0	1	1	0	1	1	0	3	3
	監査室	0	0	0	-	-	-	1	0	1	0	0	0	1	0	1
	事業本部	0	0	0	-	-	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小 計		74	41	115	-	-	-	14	27	41	4	43	47	92	111	203
総 計		281	131	412	96	77	173	14	27	41	4	43	47	395	278	673

注1) 役員・顧問9名は除いた。ただし、教職員給与の支給のある常務理事は専任教職員に含めた。

注2) 専任教職員(教員)の中には嘱託専任教員を含めた。

注3) 無給者(客員教授18名および今年度担当科目を持たない非常勤講師4名)は除いた。

注4) 研究所への出向者3名は総務部へ含めた。

注5) 株式会社LEOCへの出向者5名は麗澤瑞浪事務部へ含めた。

#### IV. 予算

##### 1. 資金収支予算

### 平成31年度資金収支予算書

平成31年 4月 1日から

令和 2年 3月31日まで

(単位 円)

収入の部			
科 目	平成31年度予算	平成30年度予算	増 減
学生生徒等納付金収入	4,587,178,000	4,521,672,000	65,506,000
手数料収入	97,942,000	93,195,000	4,747,000
寄付金収入	470,100,000	844,293,000	△ 374,193,000
補助金収入	1,128,660,000	1,232,706,000	△ 104,046,000
資産売却収入	310,000	168,138,000	△ 167,828,000
付随事業・収益事業収入	837,770,000	872,517,000	△ 34,747,000
受取利息・配当金収入	224,000,000	223,000,000	1,000,000
雑収入	192,085,000	213,323,000	△ 21,238,000
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	1,879,934,000	1,876,054,000	3,880,000
その他の収入	1,506,690,000	2,904,724,000	△ 1,398,034,000
資金収入調整勘定	△ 1,831,408,000	△ 1,876,054,000	44,646,000
前年度繰越支払資金	3,990,128,000	3,479,151,000	510,977,000
収入の部合計	13,083,389,000	14,552,719,000	△ 1,469,330,000
支出の部			
科 目	平成31年度予算	平成30年度予算	増 減
人件費支出	3,986,370,000	4,013,452,000	△ 27,082,000
教育研究経費支出	1,264,620,000	1,480,298,000	△ 215,678,000
管理経費支出	1,022,989,000	1,201,449,000	△ 178,460,000
借入金等利息支出	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0
施設関係支出	58,844,000	474,725,000	△ 415,881,000
設備関係支出	239,898,000	274,847,000	△ 34,949,000
資産運用支出	1,499,690,000	2,908,202,000	△ 1,408,512,000
その他の支出	57,509,000	197,403,000	△ 139,894,000
〔予備費〕	20,000,000	20,000,000	0
資金支出調整勘定	△ 3,970,000	△ 7,785,000	3,815,000
翌年度繰越支払資金	4,937,439,000	3,990,128,000	947,311,000
支出の部合計	13,083,389,000	14,552,719,000	△ 1,469,330,000

2. 事業活動収支予算

平成31年度事業活動収支予算書

平成31年 4月 1日から

令和 2年 3月31日まで

(単位 円)

	科目	平成31年度予算	平成30年度予算	増	減	
教育活動収入の部	学生生徒等納付金	4,587,178,000	4,521,672,000		65,506,000	
	手数料	97,942,000	93,195,000		4,747,000	
	寄付金	471,693,000	846,088,000	△	374,395,000	
	経常費等補助金	1,123,769,000	1,218,418,000	△	94,649,000	
	付随事業収入	823,503,000	854,990,000	△	31,487,000	
	雑収入	192,085,000	228,488,000	△	36,403,000	
	教育活動収入計	7,296,170,000	7,762,851,000	△	466,681,000	
		科目	平成31年度予算	平成30年度予算	増	減
事業活動支出の部	人件費	3,905,243,000	3,939,232,000	△	33,989,000	
	教育研究経費	2,245,720,000	2,423,037,000	△	177,317,000	
	管理経費	1,247,884,000	1,430,739,000	△	182,855,000	
	徴収不能額等	0	0		0	
	教育活動支出計	7,398,847,000	7,793,008,000	△	394,161,000	
教育活動収支差額		△ 102,677,000	△ 30,157,000	△	72,520,000	
教育活動外収入の部	科目	平成31年度予算	平成30年度予算	増	減	
	受取利息・配当金	224,000,000	223,000,000		1,000,000	
	その他の教育活動外収入	14,267,000	17,527,000	△	3,260,000	
	教育活動外収入計	238,267,000	240,527,000	△	2,260,000	
	事業活動支出の部	科目	平成31年度予算	平成30年度予算	増	減
		借入金等利息	0	0		0
その他の教育活動外支出		0	0		0	
教育活動外支出計	0	0		0		
教育活動外収支差額		238,267,000	240,527,000	△	2,260,000	
経常収支差額		135,590,000	210,370,000	△	74,780,000	
特別収支	科目	平成31年度予算	平成30年度予算	増	減	
	資産売却差額	310,000	41,314,000	△	41,004,000	
	その他の特別収入	8,599,000	18,940,000	△	10,341,000	
	特別収入計	8,909,000	60,254,000	△	51,345,000	
	事業活動支出の部	科目	平成31年度予算	平成30年度予算	増	減
		資産処分差額	0	135,529,000	△	135,529,000
その他の特別支出		0	0		0	
特別支出計	0	135,529,000	△	135,529,000		
特別収支差額		8,909,000	△ 75,275,000		84,184,000	
〔予備費〕		20,000,000	20,000,000		0	
基本金組入前当年度収支差額		124,499,000	115,095,000		9,404,000	
基本金組入額合計		△ 166,453,000	△ 983,151,000		816,698,000	
当年度収支差額		△ 41,954,000	△ 868,056,000		826,102,000	
前年度繰越収支差額		△ 6,183,429,000	△ 5,315,699,000	△	867,730,000	
基本金取崩額		198,412,000	326,000		198,086,000	
翌年度繰越収支差額		△ 6,026,971,000	△ 6,183,429,000		156,458,000	

(参考)

事業活動収入計	7,543,346,000	8,063,632,000	△	520,286,000
事業活動支出計	7,418,847,000	7,948,537,000	△	529,690,000